

2次元バーコードリーダー MD5080



プログラミングマニュアル

Ver1.03 2017/07/19 更新

Copyright © 2013

本書のいかなる部分も、またいかなる方法によっても、目的に関わらず、許可なく変更または改変することを禁じます。本書の内容は、予告なしに変更される場合があります。

本書に記載されているすべての製品名とサービス名は、該当する名所有者が権利を有しています

はじめにお読みください

この度は、バーコードリーダーのご購入、誠にありがとうございます。

通常の利用に関しましては、お買い上げ時（初期設定）でご利用頂けますが、変更が必要な場合は、本書から設定を行ってください。

ご利用の機種により、設定をサポートしていない箇所がございますので、その場合は予めご了承ください。

なお、解決しない場合には、弊社までご連絡ください。

ご注意

ご使用に際しては、次の点にご注意下さい。

- ・ 正面の窓を光学機器でのぞきこまないでください。
- ・ 人の目に向けて LED 光を出射させないでください。
- ・ 分解など機器の取り外しは行わないでください。

目次

○ご利用方法	8
○バーコードリーダー設定方法	9
第1章 ユーザー設定	10
デフォルト設定パラメータ	10
バージョン情報表示	10
パラメータバーコードのスキャン	10
読み取り成功時のビープ音	11
ビープ音の音程	11
ビープ音の音量	12
ビープ音の長さ	12
省電力モード	13
省電力モード移行時間	13
読み取り可能時間	14
同一バーコードの読み取り間隔	14
第2章 USB インタフェース	15
USB 接続設定	15
SNAPI(Symbol Native API)ステータスハンドシェイク	16
USB キーボードタイプ	16
キャラクタ間遅延	17
Caps Lock オーバーライド (USB 専用)	18
Caps Lock のシミュレート	18
大文字/小文字の変換	19
不明なキャラクタ	19
キーパッドのエミュレート	20
FN1 の置き換え (USB 専用)	20
ファンクションキーのマッピング	20
第3章 バーコード設定	21
バーコード UPC/EAN/JAN	22
UPC-A 読み取り	22
UPC-E 読み取り	22
UPC-E1 読み取り	22
EAN-8/JAN8 読み取り	23
EAN-13/JAN13 読み取り	23
Bookland EAN 読み取り	23
UPC/EAN/JAN アドオン (2桁と5桁)	24
UPC/EAN/JAN アドオン読み取り繰返回数	25
UPC-A チェックデジットの転送	25
UPC-E チェックデジットの転送	25
UPC-E1 チェックデジットの転送	26

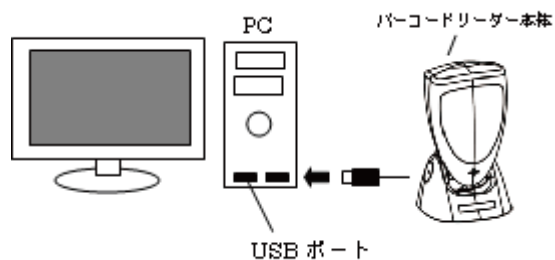
UPC-A Preamble.....	26
UPC-E Preamble.....	27
UPC-E1 Preamble.....	27
UPC-E を UPC-A に変換	28
UPC-E1 を UPC-A に変換	28
EAN-8/JAN 8 先頭に「0」追加.....	28
UCC Coupon Extended Code の読み取り	29
バーコード Code 128.....	29
Code 128 読み取り	29
UCC/EAN-128 読み取り	29
ISBT 128 読み取り	30
バーコード Code 39.....	30
Code 39 読み取り	30
Trioptic Code 39 読み取り	30
Code 39 を Code 32 に変換	31
Code 32 先頭に「A」追加.....	31
Code 39 の読み取り桁数設定	32
Code39 チェックデジットの確認.....	33
Code 39 チェックデジットの転送	33
Code 39 Full ASCII の読み取り	34
Code 39 バッファリング（スキャン&ストア）	34
データのバッファリング	35
Code 39 バッファのクリア	35
Code 39 バッファの転送.....	35
転送バッファのオーバーフロー	36
空のバッファを転送しようとした場合	36
バーコード Code 93.....	36
Code 93 の読み取り	36
Code 93 の読み取り桁数設定	37
任意の読み取り桁数.....	37
バーコード Code 11	38
Code 11 読み取り	38
Code 11 の読み取り桁数設定	39
Code 11 チェックデジットの確認	40
Code 11 チェックデジットの転送	40
バーコード Interleaved 2 of 5(ITF)	41
Interleaved 2 of 5(ITF) の読み取り	41
Interleaved 2 of 5(ITF) の読み取り桁数設定	42
Interleaved 2 of 5(ITF) チェックデジットの確認.....	43
Interleaved 2 of 5(ITF) チェックデジットの転送	44
EAN -13 への変換	44

バーコード Discrete 2 of 5(DTF)	44
Discrete 2 of 5(DTF)の読み取り	44
Discrete 2 of 5(DTF)の読み取り桁数設定	45
バーコード Codabar(NW-7)	46
Codabar(NW-7)の読み取り	46
Codabar(NW-7)の読み取り桁数設定	47
CLSI 編集	48
Codabar(NW-7) スタート・ストップキャラクタの転送	48
バーコード MSI	49
MSI 読み取り	49
MSI の読み取り桁数設定	50
MSI チェックデジットの確認	51
MSI チェックデジットの転送	51
MSI チェックデジットアルゴリズム	52
バーコード 郵便コード	52
US Postnet 読み取り	52
US Planet 読み取り	52
UK Postal 読み取り	53
UK Postal チェックデジットの転送	53
Japan Postal (ハガキ等の郵便コード) 読み取り	53
Australia Post の読み取り	53
US Postal チェックデジットの転送	54
バーコード GS1 DataBar(RSS)	55
GS1 DataBar Limited の読み取り	55
GS1 DataBar Limited の読み取り精度レベル	56
GS1 DataBar Expanded の読み取り	57
GS1 DataBar から UPC/EAN/JAN への変換	57
バーコード Composite	58
Composite CC-C 読み取り	58
Composite CC-A/B 読み取り	58
Composite TLC-39 読み取り	58
UPC Composite モード	59
Composite ビープ音モード	59
UCC/EAN Composite コードの GS1-128 エミュレーションモード	60
2次元コード	60
PDF417 読み取り	60
Micro PDF417 読み取り	60
Micro PDF417 を Code128 にエミュレーション	61
Data Matrix 読み取り	61
MaxiCode 読み取り	61
QR コード読み取り	62

読み取り精度レベル	63
2 値コードタイプの読み取り精度レベル	63
4 値コードタイプの読み取り精度レベル	65
キャラクタ間ギャップサイズ	66
バーコード MacroPDF	67
MacroPDF 送信モード	67
MacroPDF コントロールヘッダー送信	68
MacroPDF エスケープ文字	68
MacroPDF バッファデータ送信	68
MacroPDF バッファリング中止	69
その他の設定	69
コード ID 送信	69
プリフィックス・サフィックス値	69
スキャンデータ転送 フォーマット	71
FN1 置換値	72
付録 A	73
AIM コード ID	77
修飾キャラクター一覧	78
付録 C	81
表 1 ASCII キャラクタセット値一覧	81
表 2 ALT Key スタンダードデフォルト一覧	85
表 3 USB GUI キーキャラクタセット	86
表 4 PF キー標準デフォルト値一覧	87
表 5 ファンクションキー標準デフォルト値一覧	88
表 6 テンキー標準デフォルト値一覧	88
表 7 拡張キー標準デフォルト値一覧	89
付録 D	91
数字バーコード	91
キャンセルバーコード	92
反転バーコード	93
○1 次元コード反転コード	93
○Data Matrix 反転コード	94
○QR コード 反転コード	95
○Aztec 反転コード	96
読み取り補助シート	97

○ご利用方法

- ①パソコンの電源を入れて Windows を起動します。
- ②読み取りを行う前に、本体の USB ケーブルコネクタをパソコンの任意の USB ポートに接続します。



- ③パソコンの USB ポートに接続するとビープ音が鳴り、電源が入ります。
- ④エクセルやメモ帳などを開きバーコードを読み取ります。

	A
1	12345
2	12345
3	12345
4	

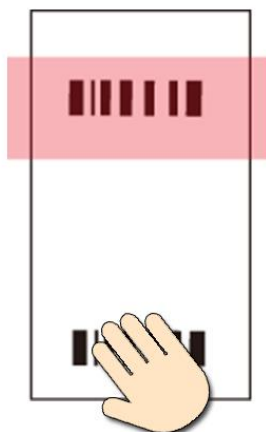
例：Excel で「12345」のバーコードを数回、読み取った場合

※バーコードスキャナを接続して、発光しない場合は、
USB ケーブルコネクタを一旦パソコンから抜いて、パソコン再起動後に再度差し直してください。

○バーコードリーダー設定方法

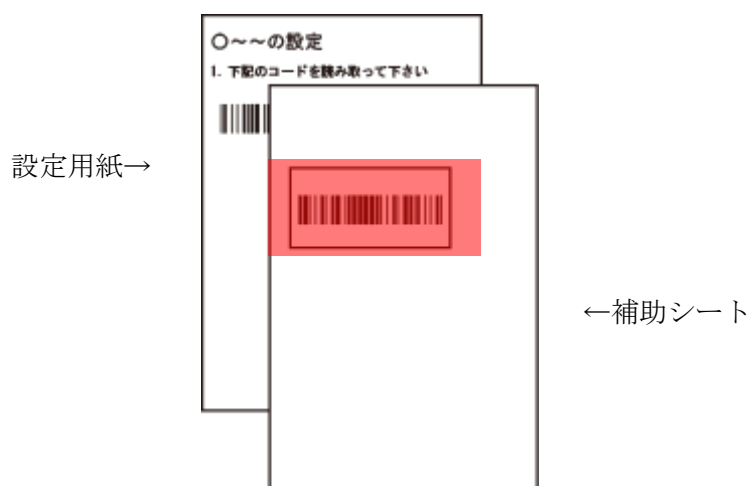
①他のバーコードを巻き込まないように読み取ります-1

紙や手で隠して読み取るとスムーズに設定を行うことが可能です。



②他のバーコードを巻き込まないように読み取ります-2

P93 の読み取り補助シートを使い読み取ると確実に設定したいコードのみの読み取りが可能です。



③このマニュアルはよく利用する設定を抜粋したものです。

詳細は別紙の英語マニュアルをご利用ください。

設定手順について

※「スキャン時のブザー音設定を行う場合の例」

①ブザー音をなしにしたい場合は、「ブザー音なし」をそのままバーコードリーダーで読み取って下さい。

②ブザー音をありに戻す場合は、「ブザー音あり」をそのままバーコードリーダーで読み取ります。

本書内で「※」印が付いているものがデフォルト値です

第 1 章 ユーザー設定

デフォルト設定パラメータ

デフォルト設定－「工場出荷状態に戻す」バーコードをスキャンすると、次のようにすべてのパラメータがデフォルトにリセットされます。



工場出荷状態に戻す Ver1.00

※2016 年 5 月以前の設定を希望の場合



工場出荷状態に戻す Ver1.02

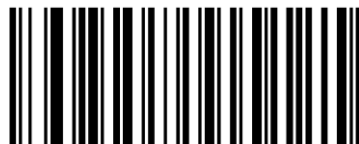
○Ver1.00 とは下記が異なります。

- ・日本語キーボードレイアウト ON

※日本語 Windows 環境で記号入ったバーコードを送信する設定です。

- ・明るさレベルを 10→8 に変更。 ※若干照射が薄くなりました。
- ・液晶読み取り ON
- ・Codabar (NW-7) が有効になりました。

バージョン情報表示



Report Software Version

ファームウェアのバージョン情報表示

パラメータバーコードのスキャン

パラメータバーコード（「デフォルト設定」パラメータバーコードも含む）の読み取りを無効にするには、以下の「パラメータのスキャンを無効にする」バーコードをスキャンします。パラメータバーコードの読み取りを有効にするには、「パラメータのスキャンを有効にする」をスキャンします。



※ パラメータのスキャンを有効にする



パラメータのスキャンを無効にする

読み取り成功時のビープ音

読み取りが成功したとき、ビープ音を鳴らすかどうかを設定します。



※鳴らす



鳴らさない

ビープ音の音程

ビープ音の音程を設定します。



低



中



※高

ビープ音の音量

ビープ音の音量を設定します。



小



中



※大

ビープ音の長さ

ビープ音の長さを設定します。



短い



中



※長い

省電力モード

バーコードリーダーが読み取り待機中のとき、省電力モード移行時間で設定された時間が経過すると、省電力モードに切り替わります。



常にパワーオン



※省電力モード

省電力モード移行時間

省電力モードに切り替わるまでの時間を設定します。

「省電力モード」の場合のみ適用されます。



※1 秒



5 秒



1 分



5 分



15 分



1 時間

読み取り可能時間

このパラメータは、スキャン中に読み取りを続ける最大時間を設定します。

0.5 秒から 9.9 秒まで 0.1 秒単位で設定できます。

デフォルト値は 9.9 秒です。

時間を設定するには、以下のバーコードをスキャンします。続いて、「数字バーコード」(P. 91) から、指定する時間に対応する 2 つの数字バーコードをスキャンします。数字が 1 桁の場合、最初に必ずゼロをスキャンしてください。例えば、0.5 秒を設定するには、以下のバーコードをスキャンしてから、「0」と「5」のバーコードをスキャンします。操作を間違ったり、設定を変更したりする場合は、「キャンセル」(P. 92) をスキャンします。



読み取り可能時間

同一バーコードの読み取り間隔

バーコードの読み取りが成功した後、再度、同一のバーコードを読み取ることができるまでの時間を設定します。読み取り範囲内にシンボルが残っていても、ビープ音が鳴るのを防ぐことができます。0.0 秒から 9.9 秒まで 0.1 秒単位で設定できます。

デフォルト値は 0.4 秒です。

「スキャンモード」にて「自動認識モード」の場合のみ適用されます。

時間を設定するには、以下のバーコードをスキャンします。続いて、「数字バーコード」(P. 91) から、指定する時間に対応する 2 つの数字バーコードをスキャンします。数字が 1 桁の場合、最初に必ずゼロをスキャンしてください。例えば、0.5 秒を設定するには、以下のバーコードをスキャンしてから、「0」と「5」のバーコードをスキャンします。操作を間違ったり、設定を変更したりする場合は、「キャンセル」(P. 92) をスキャンします。



同一バーコードの読み取り間隔

第 2 章 USB インタフェース

USB 接続設定

USB 接続のセットアップする方法について説明します。

USB デバイスタイプ

USB デバイスタイプを設定します。

USB デバイスタイプを変更すると、スキャナは自動的に再起動します。スキャナはリセットされてビープ音が鳴ります。



※HID キーボードエミュレーション

USB-HID



COM ポートエミュレーション

USB-COM



簡易 COM ポートエミュレーション



画像処理インタフェース付き

SNAPI (Symbol Native API)



画像処理インタフェースなし

SNAPI (Symbol Native API)

- * 「SNAPI」モードは開発用の設定となります。
設定の変更が必要ない場合は使用しないでください。

SNAPI(Symbol Native API)ステータスハンドシェイク

USB デバイスタイプとして SNAPI インタフェースを選択した後、ステータスハンドシェイクを有効にするか、無効にするかを選択します。



※有効



無効

USB キーボードタイプ

キーボードタイプに対応するバーコードをスキャンします。

この設定は、USB HID キーボードエミュレーションデバイスのみに適用されます。



英語（U.S.）標準 USB キーボード



ドイツ語版 Windows



フランス語版 Windows



フランス語（カナダ）版 Windows2000/XP



フランス語（カナダ）版 Windows95/98



スペイン語版 Windows



イタリア語版 Windows



スウェーデン語版 Windows



英語 (UK) 版 Windows



※日本語版 Windows (ASCII)

(「+」や「¥」等の特殊記号を使う際に設定します。



ポルトガル語 (ブラジル) 版 Windows

キャラクタ間遅延

送信キャラクタ間の遅延時間の設定をします。

USB-HID モード時に桁落ちが起こる場合に設定してください。



※遅延なし



20 ミリ秒



40 ミリ秒

Caps Lock オーバーライド (USB 専用)

「有効」を選択すると、キーボードの **Caps Lock** キーの状態に関係なく、送信される文字の大文字/小文字は保持されます。日本語版 Windows (ASCII) キーボードタイプの場合は、この設定は常に「有効」です。「無効」にすることはできません。

この設定は、HID キーボードエミュレーションデバイスだけに適用されます。



※無効



有効

Caps Lock のシミュレート

キーボード上の **Caps Lock** キーを押したときと同様にバーコード上の文字を大文字または小文字に変換できます。「有効」を選択すると、キーボード上の **Caps Lock** キーの状態に関係なく実行されます。この設定は英文字のみに適用されます。

* 「Caps Lock のシミュレート」と「Caps Lock オーバーライド」の両方を有効にしている場合は、Caps Lock オーバーライドが優先されます。



※無効



有効

大文字/小文字の変換

バーコードデータを全て大文字または小文字に変換します。



※変換なし



全て大文字に変換



全て小文字に変換

不明なキャラクタ

この設定は、HID キーボードエミュレーションデバイスと IBM デバイスのみに適用されます。

不明なキャラクタとは、ホストが認識できない文字のことです。

「不明なキャラクタを含むバーコードを送信する」を選択した場合は、不明なキャラクタを取り除いてすべてのバーコードでデータが送信され、エラービープ音は鳴りません。

「不明な文字を含むバーコードを送信しない」を選択した場合は、IBM デバイスでは、不明なキャラクタでも含むバーコードはホストに送信されず、エラービープ音が鳴ります。HID キーボードエミュレーションイスでは、バーコードデータが不明なキャラクタが見つかるまで送信されて、エラービープ音が鳴ります。



※不明なキャラクタを含むバーコードを送信する



不明な文字を含むバーコードを送信しない

キーパッドのエミュレート

「有効」を設定すると、すべてのキャラクタは、数字キーパッドから入力する ASCII シーケンスとして送信されます。たとえば、ASCII キャラクタの A は ALT メーク、0、6、5、ALT ブレークとして送信されます。



※無効



有効

FN1 の置き換え（USB 専用）

「有効」を設定すると、EAN128 バーコード内の FN1 キャラクタをユーザーで指定した値に置換されます。キャラクタ設定は P. 72 の FN1 置換値で行ってください。

※ この値のデフォルトは 7013（Enter キー）です。



有効



※無効

ファンクションキーのマッピング

バーコード（Code128 など）に ASCII の制御文字が含まれている場合に制御文字をファンクションキーに変

換する設定です。

「有効」を設定した場合、標準的な制御キーがファンクションキーに変換されます。

例えば、「有効」に設定すると ASCII 制御文字の CR (0Dh) はキーボードの **ENTER**, HT (09h) はキーボードの **TAB** に変換して出力します。* 目視文字として表示されません。

「無効」を設定すると ASCII 制御文字はキーボードの CTRL+1 文字として出力します。CR (0Dh) はキーボードの CTRL+M, HT (09h) はキーボードの CTRL+I に変換して出力します



※無効



有効

第3章 バーコード設定

各種項目のデフォルトを確認して、必要な場合のみ設定して下さい。

バーコード UPC/EAN/JAN

UPC-A 読み取り



※有効



無効

UPC-E 読み取り



※有効



無効

UPC-E1 読み取り

UPC-E1 は UCC (Uniform Code Council : 米国流通コード協会) で承認されたバーコード形式ではありません。



有効



※無効

EAN-8/JAN8 読み取り



※有効



無効

EAN-13/JAN13 読み取り



※有効



無効

Bookland EAN 読み取り



有効



※無効

UPC/EAN/JAN アドオン（2桁と5桁）

アドオンが付加されている UPC/EAN/JAN の読み取り設定です。

新雑誌コードを読み取る場合には設定が必要です。

- ・ 「無視する」を選択した場合、アドオン付き UPC/EAN/JAN コードを読み取ると、UPC/EAN/JAN は読み取られますが、アドオンは無視されます。
- ・ 「アドオン付きのみ読み取り」を選択した場合、アドオン付き UPC/EAN/JAN コードのみが読み取られ、アドオンが無いバーコードは無視されます。
- ・ 「自動認識する」を選択した場合、アドオン付き UPC/EAN/JAN コードは直ちに読み取られます。アドオンが無い場合、IG710 はアドオンがないことを確認するために、UPC/EAN/JAN「アドオン読み取り繰返回数」（P. 25）で設定された回数だけバーコードを読み取ってから、このデータを送信します。
- ・ 「先頭 378/379 のみ読み取り」を選択した場合、バーコード先頭が 378 か 379 で始まる EAN-13/JAN13 のみ検索して読み取ります。
- ・ 「先頭 978 のみ読み取り」を選択した場合、バーコードの先頭が 978 で始まる EAN-13/JAN13 のみ検索して読み取ります。
- ・ 「先頭 378/379/978 のみ読み取り」を選択した場合、バーコードの先頭が 378 か 379 か 978 で始まる EAN-13/JAN13 のみ検索して読み取ります。



※無視する



アドオン付きのみ読み取り



自動認識する



先頭 378/379 のみ読み取り



先頭 978 のみ読み取り



先頭 378/379/978 のみ読み取り

UPC/EAN/JAN アドオン読み取り繰返回数

「UPC/EAN/JAN アドオン（2 桁と 5 桁）を自動認識する」を設定した場合、バーコードデータを送信する前に読み取り繰返回数の設定を行います。設定範囲は、2 ～30 回までです。アドオンつきとアドオンなしのタイプが混在している UPC/EAN/JAN コードを読み取る際には、5 回以上の値を設定することをお勧めします。

デフォルト値は 10 回です。

読み取り繰返回数を設定する方法：以下のバーコードをスキャンしてから、「数字バーコード」(P. 91) から 2 つの数字を選択します。設定したい数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったり、設定を変更、キャンセルしたりする場合、「キャンセル」(P. 92) をスキャンします。



UPC/EAN/JAN アドオン読み取り繰返回数

UPC-A チェックデジットの転送

チェックデジットとは読み取り誤りがないかチェックするための数値です。

UPC-A のチェックデジットを転送するかどうかを設定します。



※有効



無効

UPC-E チェックデジットの転送

チェックデジットとは読み取り誤りがないかチェックするための数値です。

UPC-E のチェックデジットを転送するかどうかを設定します。



※有効



無効

UPC-E1 チェックデジットの転送

チェックデジットとは読み取り誤りがないかチェックするための数値です。

UPC-E1 のチェックデジットを転送するかどうかを設定します。



※有効



無効

UPC-A Preamble

Preamble キャラクタは、国コードとシステムキャラクタ (NS) で構成される UPC シンボルの一部です。UPC-A を読み取った際、データの先頭に国コードと NS を付加できます。国コードは、「0」固定となります。

* 「0」で始まる JAN13 を読み取る場合、「国コードを付加して、NS も送信する」を選択してください。



Preamble なし



※NS のみ送信する



国コードを付加して、NS も送信する

UPC-E Preamble

Preamble キャラクタは、国コードとシステムキャラクタ (NS) で構成される UPC シンボルの一部です。UPC-E を読み取った際、データの先頭に国コードと NS を付加できます。

国コードは、「0」固定となります。

* 「0」で始まる JAN8 を読み取る場合、「国コードを付加して、NS も送信する」を選択してください。



Preamble なし



※NS のみ送信する



国コードを付加して、NS も送信する

UPC-E1 Preamble

Preamble キャラクタは、国コードとシステムキャラクタ (NS) で構成される UPC シンボルの一部です。UPC-E1 を読み取った際、データの先頭に国コードと NS を付加できます。国コードは、「0」固定となります。



Preamble なし



※NS のみ送信する



国コードを付加して、NS も送信する

UPC-E を UPC-A に変換

UPC-E で読み取られたデータを UPC-A に変換して転送するには、「有効」をスキャンします。

有効にした場合は、変換後に UPC-A の設定（Preamble とチェックデジット等）が反映します。

「無効」をスキャンした場合は、UPC-E で読み取られたデータは、変換されずに UPC-E データとして転送されます。



有効



※無効

UPC-E1 を UPC-A に変換

UPC-E1 で読み取られたデータを UPC-A に変換して転送するには、「有効」をスキャンします。

有効にした場合は、変換後に UPC-A の設定（Preamble とチェックデジット等）が反映します。

「無効」をスキャンした場合は、UPC-E1 で読み取られたデータは、変換されずに UPC-E1 データとして転送されます。



有効



※無効

EAN-8/JAN 8 先頭に「0」追加

EAN-8/JAN 8 で読み取られたデータの先頭に「0」を5つ付加して転送するには、「有効」をスキャンします。

これにより、EAN-13/JAN 13 に変換することができます。

「無効」をスキャンした場合は、EAN/JAN-8 シンボルはそのまま転送されます。



有効



※無効

UCC Coupon Extended Code の読み取り

先頭 1 桁が「5」から始まる UPC-A バーコード、先頭 2 桁が「99」から始まる EAN/JAN-13
UPC-A/EAN-128 クーポンコードを読み取るには、「有効」をスキャンします。



有効



※無効

バーコード Code 128

Code 128 読み取り



※有効



無効

UCC/EAN-128 読み取り



※有効



無効

ISBT 128 読み取り

ISBT 128 は、血液銀行産業で使われる Code 128 の一種です。

* 有効にした場合は、ISBT 連結を実行してください。



※有効



無効

バーコード Code 39

Code 39 読み取り



※有効



無効

Trioptic Code 39 読み取り

Trioptic Code 39 は、コンピュータのデープカードリッジのマーキングに使用される Code 39 の一種です。

Trioptic Code 39 シンボルは、常に 6 文字で構成されます。

* Trioptic Code 39 と Code 39 Full ASCII は、同時に「有効」にできません。



有効



※無効

Code 39 を Code 32 に変換

Code 32 は、イタリアの製薬工業に使用される Code 39 の一種です。

* 「Code 39 の読み取り」を有効にする必要があります。



有効



※無効

Code 32 先頭に「A」追加

Code 32 で読み取られたデータの先頭に「A」を付加して転送するには、「有効」をスキャンします。

* 「Code 39 を Code 32 に変換」を有効にする必要があります。



有効



※無効

Code 39 の読み取り桁数設定

Code 39 の読み取り桁数「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、「指定範囲内読み取り桁数」、「任意の読み取り桁数」に設定できます。

デフォルト値は、「指定範囲内読み取り桁数」で最小 2 桁、最大 55 桁です。

＊「Code 39 Full ASCII 変換」を有効にする場合は、「任意の読み取り桁数」の設定をすることを推奨します。

● 1 種類の読み取り桁数

1 種類の選択した読み取り桁数の Code 39 しか読み取りません。

例えば、12 桁文字の Code 39 だけを読み取りたい場合：

- ①「1 種類の読み取り桁数」をスキャンします。
- ②「数字バーコード」(P. 91) の「1」、「2」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は (P. 92) の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が 1 桁の場合は、「0」、「1 桁数字」をスキャンします。

● 2 種類の読み取り桁数

2 種類の選択した読み取り桁数の Code 39 しか読み取りません。

例えば、4 桁と 12 桁文字の Code 39 だけを読み取りたい場合：

- ①「2 種類の読み取り桁数」をスキャンします。
- ②「数字バーコード」(P. 91) の「0」、「4」、「1」、「2」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は (P. 92) の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が 1 桁の場合は、「0」、「1 桁数字」をスキャンします。

● 指定範囲内読み取り桁数

指定した範囲内桁数の Code 39 しか読み取りません。

例えば、3～11 桁文字範囲内の Code 39 だけを読み取りたい場合：

- ①「指定範囲内読み取り桁数」をスキャンします。
- ②「数字バーコード」(P. 91) の「0」、「3」、「1」、「1」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は (P. 92) の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が 1 桁の場合は、「0」、「1 桁数字」をスキャンします。

● 任意の読み取り桁数

任意の文字数の Code 39 を読み取ります。



1 種類の読み取り桁数



2 種類の読み取り桁数



※指定範囲内読み取り桁数



任意の読み取り桁数

Code39 チェックデジットの確認

チェックデジットとは読み取り誤りが無いかチェックするための数値です。

「有効」を選択すると「モジュラス 43」チェックデジットを含む Code 39 だけが読み取られます。



有効



※無効

Code 39 チェックデジットの転送

Code 39 を読み取った際、チェックデジットを転送します。

* 「Code 39 チェックデジットの確認」を有効にする必要があります。



有効



※無効

Code 39 Full ASCII の読み取り

Code 39 Full ASCII とは、キャラクタをペアにしてフル ASCII キャラクタセットにエンコードする Code 39 の一種です。「ASCII キャラクタ値一覧」(P. 82)をご参考にして下さい。

*Code 39 Full ASCII と Trioptic Code 39 は、同時に「有効」にできません。



有効



※無効

Code 39 バッファリング (スキャン&ストア)

この機能により、IG710 が複数の Code 39 データを蓄積することができます。

スキャン&ストアオプション (Code 39 のバッファ) を選択して、後で転送できるようにするために、一時的に先頭のキャラクタが空白であるすべての Code 39 を蓄積します。先頭の空白は削除されます。

「有効」をスキャンしますと、Code 39 のみを読み取るようにスキャンを設定することを推奨します。

「無効」をスキャンしますと、読み取られたすべての Code 39 データは蓄積せず、直ちに転送されます。

*転送バッファにデータが蓄積されている場合は、「無効」に設定することができません。バッファは 200 バイトまで情報を蓄積できます。

*転送バッファ内にデータがあるときに Code 39 のバッファリングを無効するには、先にバッファの内容を「Code 39 バッファクリア」か「Code 39 バッファ送信」をスキャンしてください。



有効



※無効

データのバッファリング

データのバッファリングを行うには、Code 39 のバッファリングが有効に設定する必要があります。開始バターンの直後に空白を伴う Code 39 が読み取られなければなりません。

- ・ データが転送バッファをオーバーフローしない限り、スキャナは低い/高いピープ音を鳴らして、読み取るとバッファリングが成功したを示します。(オーバーフローが発生した場合については、「転送バッファのオーバーフロー」(P. 36) を参照して下さい。)
- ・ IG710 は読み取ったデータを、先頭の空白を除いて転送バッファに追加します。
- ・ 転送は行われません。

Code 39 バッファのクリア

蓄積されている転送データをクリアする場合「転送バッファのクリア」をスキャンして下さい。

これは、開始キャラクタ、ダッシュ（マイナス）および終了キャラクタのみを含んでいます。

- ・ スキャナは短い高音→低音を鳴らします。
- ・ スキャナは転送バッファをクリアします。
- ・ 転送は出来ません。



- * 「バッファクリア」は1つのダッシュ（マイナス）キャラクタしか含んでいないので、「Code 39 の読み取り桁数」最小値は「1」に設定して下さい。

Code 39 バッファの転送

蓄積されているデータの転送方法は2つあります。

1 下の「バッファの転送」をスキャンします。これは、開始キャラクタ、ダッシュ（マイナス）および終了キャラクタのみを含んでいます。

- ・ スキャンはバッファを転送してクリアします。
- ・ スキャナは短い高音→低音を鳴らします。



2 先頭が空白以外の Code 39 バーコードをスキャンします。

- ・ スキャナは新しい読み取りデータをバッファデータに追加します。
- ・ スキャナはバッファの内容を転送してクリアします。
- ・ スキャナはバッファの内容が転送されたことを低音→高音を鳴らして知らせます。
- ・ スキャナはバッファの内容を転送してクリアします。

- * 「バッファの転送」は1つのプラス（+）キャラクタしか含んでいないので、「Code 39 の読み取り桁数」最小値は「1」に設定して下さい。

転送バッファのオーバーフロー

Code 39 バッファは 200 キャラクタを保持します。読み取られたシンボルによって転送バッファがオーバーフローした場合には、次のようになります。

- ・ スキャナは 3 回長い高音を鳴らしてシンボルが受け入れられなかったことを知らせます。
- ・ 転送は行われません。バッファ内のデータは影響を受けません。

空のバッファを転送しようとした場合

読み取られたシンボルが「バッファの転送」シンボルであり、Code 39 バッファが空だった場合には、次のようになります。

- ・ 短い低音→高音が鳴り、バッファが空であることを知らせます。
- ・ 転送は行われません。
- ・ バッファは空のままです。
- ・

バーコード Code 93

Code 93 の読み取り

Code 93 の読み取りを設定します



有効



※無効

Code 93 の読み取り桁数設定

Code 93 の読み取り桁数「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、「指定範囲内読み取り桁数」、「任意の読み取り桁数」に設定できます。

デフォルト値は、「指定範囲内読み取り桁数」で最小 4 桁、最大 55 桁です。

● 1 種類の読み取り桁数

1 種類の選択した読み取り桁数の Code 93 しか読み取りません。

例えば、12 桁文字の Code 93 だけを読み取りたい場合：

- ①「1 種類の読み取り桁数」をスキャンします。
- ②「数字バーコード」(P. 91)の「1」、「2」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は(P. 92)の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が 1 桁の場合は、「0」、「1 桁数字」をスキャンします。

● 2 種類の読み取り桁数

2 種類の選択した読み取り桁数の Code 93 しか読み取りません。

例えば、4 桁と 12 桁文字の Code 93 だけを読み取りたい場合：

- ①「2 種類の読み取り桁数」をスキャンします。
- ②p. 91「数字バーコード」の「0」、「4」、「1」、「2」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は P. 92 の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が 1 桁の場合は、「0」、「1 桁数字」をスキャンします。

● 指定範囲内読み取り桁数

指定した範囲内桁数の Code 93 しか読み取りません。

例えば、3 ～11 桁文字範囲内の Code 93 だけを読み取りたい場合：

- ①「指定範囲内読み取り桁数」をスキャンします。
- ②p. 91「数字バーコード」の「0」、「3」、「1」、「1」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は P. 92 の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が 1 桁の場合は、「0」、「1 桁数字」をスキャンします。

任意の読み取り桁数

任意の文字数の Code 93 を読み取ります。



1 種類の読み取り桁数



2 種類の読み取り桁数



※指定範囲内読み取り桁数



任意の読み取り桁数

バーコード Code 11

Code 11 読み取り

Code 11 の読み取りを設定します。



有効



※無効

Code 11 の読み取り桁数設定

Code 11 の読み取り桁数「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、「指定範囲内読み取り桁数」、「任意の読み取り桁数」に設定できます。

デフォルト値は、「指定範囲内読み取り桁数」で最小 4 桁、最大 55 桁です。

● 1 種類の読み取り桁数

1 種類の選択した読み取り桁数の Code 11 しか読み取りません。

例えば、12 桁文字の Code 11 だけを読み取りたい場合：

- ①「1 種類の読み取り桁数」をスキャンします。
- ②「数字バーコード」(P. 91)の「1」、「2」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は(P. 92)の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が 1 桁の場合は、「0」、「1 桁数字」をスキャンします。

● 2 種類の読み取り桁数

2 種類の選択した読み取り桁数の Code 11 しか読み取りません。

例えば、4 桁と 12 桁文字の Code 11 だけを読み取りたい場合：

- ①「2 種類の読み取り桁数」をスキャンします。
- ②「数字バーコード」(P. 91)の「0」、「4」、「1」、「2」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は(P. 92)の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が 1 桁の場合は、「0」、「1 桁数字」をスキャンします。

● 指定範囲内読み取り桁数

指定した範囲内桁数の Code 11 しか読み取りません。

例えば、3 ～11 桁文字範囲内の Code 11 だけを読み取りたい場合：

- ①「指定範囲内読み取り桁数」をスキャンします。
- ②「数字バーコード」(P. 91)の「0」、「3」、「1」、「1」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は(P. 92)の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が 1 桁の場合は、「0」、「1 桁数字」をスキャンします。

● 任意の読み取り桁数

任意の文字数の Code 11 を読み取ります。



1 種類の読み取り桁数



2 種類の読み取り桁数



※指定範囲内読み取り桁数



任意の読み取り桁数

Code 11 チェックデジットの確認

チェックデジットとは読み取り誤りが無いかチェックするための数値です。

Code 11 を読み取った際、1つのチェックデジットか2つのチェックデジットにて確認を行います。
チェックデジットが無い場合は「無効」をスキャンして下さい。



※無効



1つのチェックデジット



2つのチェックデジット

Code 11 チェックデジットの転送

Code 11 を読み取った際、チェックデジットを転送します。

* 「Code 11 チェックデジットの確認」を有効にする必要があります。



有効



※無効

バーコード Interleaved 2 of 5(ITF)

Interleaved 2 of 5(ITF) の読み取り



※有効



無効

Interleaved 2 of 5(ITF)の読み取り桁数設定

Interleaved 2 of 5(ITF)の読み取り桁数「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、「指定範囲内読み取り桁数」、「任意の読み取り桁数」に設定できます。

デフォルト値は、「指定範囲内読み取り桁数」で 14 桁です。

● 1 種類の読み取り桁数

1 種類の選択した読み取り桁数の Interleaved 2 of 5(ITF) しか読み取りません。

例えば、12 桁文字の Interleaved 2 of 5(ITF) だけを読み取りたい場合：

- ① 「1 種類の読み取り桁数」をスキャンします。
- ② 「数字バーコード」(P. 91)の「1」、「2」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は(P. 92)の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が 1 桁の場合は、「0」、「1 桁数字」をスキャンします。

● 2 種類の読み取り桁数

2 種類の選択した読み取り桁数の Interleaved 2 of 5(ITF) しか読み取りません。

例えば、4 桁と 12 桁文字の Interleaved 2 of 5(ITF) だけを読み取りたい場合：

- ① 「2 種類の読み取り桁数」をスキャンします。
- ② 「数字バーコード」(P. 91)の「0」、「4」、「1」、「2」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は(P. 92)の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が 1 桁の場合は、「0」、「1 桁数字」をスキャンします。

● 指定範囲内読み取り桁数

指定した範囲内桁数の Interleaved 2 of 5(ITF) しか読み取りません。

例えば、3 ～ 11 桁文字範囲内の Interleaved 2 of 5(ITF) だけを読み取りたい場合：

- ① 「指定範囲内読み取り桁数」をスキャンします。
- ② 「数字バーコード」(P. 91)の「0」、「3」、「1」、「1」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は(P. 92)の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が 1 桁の場合は、「0」、「1 桁数字」をスキャンします。

● 任意の読み取り桁数

任意の文字数の Interleaved 2 of 5(ITF)を読み取ります。



1 種類の読み取り桁数



2 種類の読み取り桁数



※指定範囲内読み取り桁数



任意の読み取り桁数

Interleaved 2 of 5(ITF) チェックデジットの確認

チェックデジットとは読み取り誤りが無いかチェックするための数値です。

Interleaved 2 of 5(ITF)を読み取った際、Uniform Symbology Specification (USS) アルゴリズムか Optical Product Code Council (OPCC) アルゴリズムかをスキャンします。どちらかをスキャンした場合は、チェックデジットが含まれていない ITF の読み取りはできません。

* チェックデジットが無い場合は「無効」をスキャンして下さい。



※無効



USS



OPCC

Interleaved 2 of 5(ITF) チェックデジットの転送

Interleaved 2 of 5(ITF)を読み取った際、チェックデジットを転送します。

* 「Interleaved 2 of 5(ITF)チェックデジットの確認」を有効にする必要があります。



有効



※無効

EAN -13 への変換

14桁の Interleaved 2 of 5 を 13 桁 EAN-13 に変換したい場合、「有効」をスキャンします。変換した後、EAN-13 として転送します。この設定は、先頭の「0」とチェックデジットが付いた 14 桁の Interleaved 2 of 5 を読み取った際のみ有効となります。



有効



※無効

バーコード Discrete 2 of 5(DTF)

Discrete 2 of 5(DTF)の読み取り



有効



※無効

Discrete 2 of 5(DTF)の読み取り桁数設定

Discrete 2 of 5(DTF)の読み取り桁数「1種類の読み取り桁数」、「2種類の読み取り桁数」、「指定範囲内読み取り桁数」、「任意の読み取り桁数」に設定できます。

デフォルト値は、「指定範囲内読み取り桁数」で12桁です。

● 1種類の読み取り桁数

1種類の選択した読み取り桁数のDiscrete 2 of 5(DTF)しか読み取りません。

例えば、12桁文字のDiscrete 2 of 5(DTF)だけを読み取りたい場合：

- ①「1種類の読み取り桁数」をスキャンします。
- ②「数字バーコード」(P.91)の「1」、「2」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は(P.92)の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が1桁の場合は、「0」、「1桁数字」をスキャンします。

● 2種類の読み取り桁数

2種類の選択した読み取り桁数のDiscrete 2 of 5(DTF)しか読み取りません。

例えば、4桁と12桁文字のDiscrete 2 of 5(DTF)だけを読み取りたい場合：

- ①「2種類の読み取り桁数」をスキャンします。
- ②「数字バーコード」(P.91)の「0」、「4」、「1」、「2」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は(P.92)の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が1桁の場合は、「0」、「1桁数字」をスキャンします。

● 指定範囲内読み取り桁数

指定した範囲内桁数のDiscrete 2 of 5(DTF)しか読み取りません。

例えば、3～11桁文字範囲内のDiscrete 2 of 5(DTF)だけを読み取りたい場合：

- ①「指定範囲内読み取り桁数」をスキャンします。
- ②「数字バーコード」(P.91)の「0」、「3」、「1」、「1」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は(P.92)の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が1桁の場合は、「0」、「1桁数字」をスキャンします。

● 任意の読み取り桁数

任意の文字数のDiscrete 2 of 5(DTF)を読み取ります。



1種類の読み取り桁数



2種類の読み取り桁数



※指定範囲内読み取り桁数



任意の読み取り桁数

バーコード Codabar(NW-7)

Codabar(NW-7)の読み取り



※有効

2017/7/19 以降より有効です。



無効

※2017/7/18 以前は無効です。

Codabar(NW-7)の読み取り桁数設定

Codabar (NW-7) の読み取り桁数「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、「指定範囲内読み取り桁数」、「任意の読み取り桁数」に設定できます。

デフォルト値は、「指定範囲内読み取り桁数」で最小 5 桁、最大 55 桁です。

● 1 種類の読み取り桁数

1 種類の選択した読み取り桁数の Codabar (NW-7) しか読み取りません。

例えば、12 桁文字の Codabar (NW-7) だけを読み取りたい場合：

- ①「1 種類の読み取り桁数」をスキャンします。
- ②「数字バーコード」(P. 91)の「1」、「2」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は(P. 92)の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が1桁の場合は、「0」、「1桁数字」をスキャンします。

● 2 種類の読み取り桁数

2 種類の選択した読み取り桁数の Codabar (NW-7) しか読み取りません。

例えば、4 桁と 12 桁文字の Codabar (NW-7) だけを読み取りたい場合：

- ①「2 種類の読み取り桁数」をスキャンします。
- ②「数字バーコード」(P. 91)の「0」、「4」、「1」、「2」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は(P. 92)の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が1桁の場合は、「0」、「1桁数字」をスキャンします。

● 指定範囲内読み取り桁数

指定した範囲内桁数の Codabar (NW-7) しか読み取りません。

例えば、3 ～11 桁文字範囲内の Codabar (NW-7) だけを読み取りたい場合：

- ①「指定範囲内読み取り桁数」をスキャンします。
- ②「数字バーコード」(P. 91)の「0」、「3」、「1」、「1」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は(P. 92)の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が1桁の場合は、「0」、「1桁数字」をスキャンします。

● 任意の読み取り桁数

任意の文字数の Codabar (NW-7) を読み取ります。



1 種類の読み取り桁数



2 種類の読み取り桁数



※指定範囲内読み取り桁数



任意の読み取り桁数

CLSI 編集

1 4 桁の Codabar (NW-7) を読み取った際、1 番目、5 番目、10 番目の各文字の後にスペースを挿入し、スタート・ストップキャラクタを除いて転送します。この機能は、ホストシステムでのこのデータ形式が必要な場合に有効にします。

* 読み取った桁数は、スタート・ストップキャラクタは含まれず 14 桁です。



有効（送信しない）



※無効（送信する）

Codabar(NW-7) スタート・ストップキャラクタの転送

Codabar (NW-7) を読み取った際のスタート・ストップの送信を外す機能です。

有効にすると送信しません。

※「B9876543210B」の B 等です。



有効（送信しない）



※無効（送信する）

バーコード MSI

MSI 読み取り



有効



※無効

MSI の読み取り桁数設定

MSI の読み取り桁数「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、「指定範囲内読み取り桁数」、「任意の読み取り桁数」に設定できます。

デフォルト値は、「指定範囲内読み取り桁数」で最小 4 桁、最大 55 桁です。

● 1 種類の読み取り桁数

1 種類の選択した読み取り桁数の MSI しか読み取りません。

例えば、12 桁文字の MSI だけを読み取りたい場合：

- ①「1 種類の読み取り桁数」をスキャンします。
- ②「数字バーコード」(P. 91)の「1」、「2」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は(P. 92)の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が 1 桁の場合は、「0」、「1 桁数字」をスキャンします。

● 2 種類の読み取り桁数

2 種類の選択した読み取り桁数の MSI しか読み取りません。

例えば、4 桁と 12 桁文字の MSI だけを読み取りたい場合：

- ①「2 種類の読み取り桁数」をスキャンします。
- ②「数字バーコード」(P. 91)の「0」、「4」、「1」、「2」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は(P. 92)の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が 1 桁の場合は、「0」、「1 桁数字」をスキャンします。

● 指定範囲内読み取り桁数

指定した範囲内桁数の MSI しか読み取りません。

例えば、3 ～11 桁文字範囲内の MSI だけを読み取りたい場合：

- ①「指定範囲内読み取り桁数」をスキャンします。
- ②「数字バーコード」(P. 91)の「0」、「3」、「1」、「1」をスキャンして完了です。
 - ・ 設定を中止する場合は(P. 92)の「キャンセル」をスキャンして下さい。
 - ・ 桁数設定値が 1 桁の場合は、「0」、「1 桁数字」をスキャンします。

● 任意の読み取り桁数

任意の文字数の MSI を読み取ります。



1 種類の読み取り桁数



2 種類の読み取り桁数



※指定範囲内読み取り桁数



任意の読み取り桁数

MSI チェックデジットの確認

チェックデジットとは読み取り誤りが無いかチェックするための数値です。

MSI を読み取った際、チェックデジットを確認します。常に最低 1 つのチェックデジットが必要です。「2 つのチェックデジット」をスキャンした場合は、2 番目のチェックデジットの検証方法を設定する必要があります。「チェックデジットアルゴリズム」(P. 52)を参照してください



※1 つのチェックデジット



2 つのチェックデジット

MSI チェックデジットの転送

MSI を読み取った際、チェックデジットを転送します。



有効



※無効

MSI チェックデジットアルゴリズム

「MSI チェックデジットの確認」で「2つのチェックデジット」を選択した場合、完全性を確認する検査が2回要求されます。アルゴリズムとして Mod 10/Mod 11 と Mod 10/Mod 10 のいずれかをスキャンして下さい。



Mod 10/Mod 11



※Mod 10/Mod 10

バーコード 郵便コード

US Postnet 読み取り



※有効



無効

US Planet 読み取り



※有効



無効

UK Postal 読み取り



有効



※無効

UK Postal チェックデジットの転送

UK Postal を読み取った際、チェックデジットを転送します。



※有効



無効

Japan Postal (ハガキ等の郵便コード) 読み取り



有効



※無効

Australia Post の読み取り



有効



※無効

US Postal チェックデジットの転送

US Postal を読み取った際、チェックデジットを転送します。



※有効



無効

バーコード GS1 DataBar(RSS)

GS1 DataBar の種類は以下の通りです。

- ・ GS1 DataBar Omnidirectional
- ・ GS1 DataBar Truncated
- ・ GS1 DataBar Stacked
- ・ GS1 DataBar Stacked Omnidirectional
- ・ GS1 DataBar Limited
- ・ GS1 DataBar Expanded
- ・ GS1 DataBar Expanded Stacked

各 GS1 DataBar の項目で有効または無効を設定します。

GS1 DataBar の読み取り

以下の GS1 DataBar を有効または無効に設定します。

- ・ GS1 DataBar Omnidirectional
- ・ GS1 DataBar Truncated
- ・ GS1 DataBar Stacked
- ・ GS1 DataBar Stacked Omnidirectional



※有効



無効

GS1 DataBar Limited の読み取り



有効



※無効

GS1 DataBar Limited の読み取り精度レベル

IG710 は、GS1 DataBar Limited のバーコードに対して 4 種類の読み取り精度レベルを設定できます。読み取り精度とスキャナの読み取り速度は反比例します。読み取り精度のレベルを上げると、スキャンする際に読み取り速度が低下します。ご使用の環境に応じて、読み取り精度レベルをスキャンして下さい。

- ・ レベル 1 : バーコードのクリアマージンは必要ありません。このレベルは、以前の GS1 規格に準拠しています。しかし、数字「7」と「9」で始まる UPC コードをスキャンするとき、誤って DataBar Limited バーコードとして読み取る可能性があります。
- ・ レベル 2 : 自動的にバーコードの危険性を検出します。この読み取り精度レベルは、UPC シンボルをスキャンする際に、誤って DataBar Limited バーコードとして読み取る可能性があります。誤った読み取りが検出された場合は、IG710 はレベル 3、そうでなければレベル 1 で読み取りを行います。
- ・ レベル 3 : このレベルは、新たに追加された GS1 規格に準拠したバーコードの読み取りに適しています。読み取るバーコードには、末尾のクリアマージンが 5X 必要です。
- ・ レベル 4 : このレベルは、GS1 規格よりも厳しい条件のバーコードの読み取りに適しています。読み取るバーコードには、先頭と末尾のクリアマージンが 5X 必要です。



レベル 1



レベル 2



※レベル 3



レベル 4

GS1 DataBar Expanded の読み取り

以下の GS1 DataBar Expanded を有効または無効に設定します。

- GS1 DataBar Expanded
- GS1 DataBar Expanded Stacked



※有効



無効

GS1 DataBar から UPC/EAN/JAN への変換

このパラメータは、コンポジットシンボルの一部として読み取られない GS1 DataBar と GS1 DataBar Limited にだけ適用されます。この変換が有効な場合、1 個のゼロを 1 桁目としてエンコードする GS1 DataBar と GS1 DataBar Limited では、先頭の「010」が取り除かれ、バーコードは EAN/JAN-13 として転送されます。

2 個以上 6 個未満の「0」で開始されるバーコードでは、先頭（AI 含む）の「0100」が取り除かれ、バーコードは UPC-A として転送されます。システムキャラクタとカントリーコードを転送する「UPC-A プリアンブル（国コードと NS）」パラメータは、変換後のバーコードに適用されます。システムキャラクタとチェックデジットは両方とも取り除かれないことに注意してください。



有効



※無効

バーコード Composite

Composite CC-C 読み取り



有効



※無効

Composite CC-A/B 読み取り



有効



※無効

Composite TLC-39 読み取り



有効



※無効

UPC Composite モード

UPC バーコードは、2D バーコードと「リンク」して、1 つのバーコードとして送信できます。「Composite CC-A/B」を有効にした場合は、次のいずれかをスキャンします。

- ・ 「UPC をリンクしない」をスキャンした場合、UPC バーコードと 2D バーコードを検出したかどうかに関係なく、UPC バーコードを送信します。
- ・ 「UPC を常にリンクする」をスキャンした場合、UPC バーコードと 2D 部分を転送します。2D が存在しない場合、UPC バーコードは転送されません。
- ・ 「UPC コンポジットを自動認識する」をスキャンした場合、IG710 は 2D 部分があるかどうかを判別してから、UPC 部分と 2D 部分を転送します。



UPC をリンクしない



※UPC を常にリンクする



UPC コンポジットを自動認識する

Composite ビープ音モード

Composite コードがスキャンされた際のビープ音回数を設定します。



読み取り後にビープ音が 1 回鳴る



※各コードが読み取られるたびに鳴る



読み取り後にビープ音が 2 回鳴る

UCC/EAN Composite コードの GS1-128 エミュレーションモード



有効



※無効

2次元コード

PDF417 読み取り



※有効



無効

Micro PDF417 読み取り



有効



※無効

Micro PDF417 を Code128 にエミュレーション

この機能は、Micro PDF417 を Code128 として送信します。「設定」を有効にするには、「コード ID 送信」より、P69 の AIM コード ID を選択する必要があります。

・設定を「有効」にしますと、以下のプリフィックスが送信されます。

]C1 先頭のデータが「903～907」、「912」、「914」、「915」の場合

]C2 先頭のデータが「908」、「909」の場合

]C0 先頭のデータが「910」、「911」の場合

・設定を「無効」にしますと、以下のプリフィックスが送信されます。

]L3 先頭のデータが「903～907」、「912」、「914」、「915」の場合

]L4 先頭のデータが「908」、「909」の場合

]L5 先頭のデータが「910」、「911」の場合



有効



※無効

Data Matrix 読み取り



※有効



無効

MaxiCode 読み取り



※有効



無効

QRコード読み取り



※有効



無効

読み取り精度レベル

2 値コードタイプの読み取り精度レベル

IG710 は、2 値コードタイプのバーコードに対して 4 種類の精度レベルを設定できます。バーコード品質等によって適切なレベルを設定してください。バーコード品質レベルの低下に応じて、選択する精度レベルを上げます。精度レベルが上がれば、スキャナの読み取り速度は低下します。

*4 値コード（UPC/EAN/JAN, Code128 ファミリー、Code93）は対象ではありません。

レベル 1

次のコードを読み取る際、「2 度読み一致」を行います。

コードタイプ	桁数
Codabar	8 桁以下
MSI	4 桁以下
D 2 of 5	8 桁以下
I 2 of 5	8 桁以下

レベル 2

次のコードタイプを読み取る際、「2 度読み一致」を行います。

コードタイプ	桁数
全て	全て

レベル 3

次のコードタイプを読み取る場合は、「3 度読み一致」を行います。それ以外のコードタイプの場合は、「2 度読み一致」になります。

コードタイプ	桁数
MSI	4 桁以下
D 2 of 5	8 桁以下
I 2 of 5	8 桁以下
Codabar	8 桁以下

レベル 4

次のコードタイプを読み取る際、「3 度読み一致」を行います。

コードタイプ	桁数
全て	全て



※レベル 1



レベル 2



レベル 3



レベル 4

4 値コードタイプの読み取り精度レベル

IG710 は、4 値コードタイプのバーコードに対して 4 種類の読み取り精度レベルを設定できます。このバーコードには、UPC/EAN/JAN、Code128 ファミリー、Code39 が含まれます。バーコード品質レベルの低下に応じて、読み取り精度レベルを上げます。読み取り精度とスキャナの読み取り速度は反比例するため、レベルを上げると、読み取りに時間がかかる場合があります。

- ・ レベル 0： この設定では、IG710 はその性能を最大限に発揮できる状態で動作しつつ、規格を満たしているバーコードをスキャンするために十分な読み取り精度を確保できます。
- ・ レベル 1： 4 値コードを読み取る際、「2 度読み一致」を行います。
- ・ レベル 2： 4 値コードを読み取る際、「3 度読み一致」を行います。
- ・ レベル 3： 4 値コードを読み取る際、「4 度読み一致」を行います。



レベル 0



※レベル 1



レベル 2



レベル 3

キャラクタ間ギャップサイズ

Code39 と Codabar (NW-7) には、通常小さなキャラクタ間ギャップがあります。バーコードの印刷技術によっては、このギャップは許容されている最大サイズよりも大きくなり、スキャナがシンボルを読み取れなくなることがあります。この問題が生じた場合には、「大きなキャラクタ間ギャップ」を設定してください。



※通常のキャラクタ間ギャップ



大きなキャラクタ間ギャップ

バーコード MacroPDF

MacroPDF は、1 個のファイルに複数の PDF シンボルを連結している特徴があります。IG710 は、最大 50 個までの MacroPDF シンボル内に保存された 64KB 以上の読み取りデータを保存できます。

*** 警告 ***

MacroPDF シーケンスごとに固有の識別子が付加されているため、出力時はシーケンス単位で分離してください。印刷時は、各配列にユニークな識別子があるので、それぞれの MacroPDF 配列は別々にして下さい。同じデータをコード化していても、複数の MacroPDF 配列を混ぜないでください。

MacroPDF 配列のスキャン時は、途切れることなく全ての MacroPDF 配列をスキャンして下さい。

MacroPDF 送信モード

設定は 3 種類あります。

- ・ 全てのシンボルをバッファリング/完全である時送信 :
全体の配列がスキャンされ、全て解読されますと送信します。
限界の 50 シンボルを超えると、全体がスキャンされていけませんので送信しません。バッファをクリアするために「バッファデータ送信」をスキャンして下さい。
- ・ 特定の指示なし :
配列に関わらず解読されたそれぞれの MacroPDF シンボルを送信します
このモードを選択した場合は、「コントロールヘッダー送信」を「有効」にしてください。
- ・ パススルー :
処理を実行せず、データを解読、送信します。



全てのシンボルをバッファリング/完全である時送信



特定の指示なし



※パススルー

MacroPDF コントロールヘッダー送信

セグメントインデックスやファイル ID 等のコントロールヘッダーの送信有無の設定になります。

* 「MacroPDF 送信モード」で「特定の指示なし」にした場合は有効にしてください。



有効



※無効

MacroPDF エスケープ文字

エスケープキャラクタとしてバックスラッシュキャラクタを有効にします。(GLI プロトコル)



有効



※無効

MacroPDF バッファデータ送信

この設定は、蓄積されたデータを送信してクリアします。



バッファデータ送信

MacroPDF バッファリング中止

この設定は、蓄積されたデータをクリアしてバッファリングを中止します。



バッファリング中止

その他の設定

コード ID 送信

バーコードを読み取った際、指定されたコード ID キャラクタをバーコードデータの先頭に付加して送信します。プリフィックスが既に付加されている場合、コード ID キャラクタはプリフィックスとバーコードデータの間に挿入されます。

付加されるコード ID キャラクタは、(p. 69) を参照してください。



シンボルコード ID キャラクタ



AIM コード ID キャラクタ



※なし

プリフィックス・サフィックス値

バーコードデータのプリフィックス（先頭）に付加する 1 桁のキャラクタ、およびサフィックス（末尾）に

付加する1桁か2桁のキャラクタを、任意に指定することができます。

プリフィックス・サフィックス値を設定するには、以下のバーコードをスキャンした後、付加させたいキャラクタに対応する数字4桁を「ASCII キャラクタ設定一覧表」(P. 82)から選び、「数字バーコード」(P. 91)をスキャンします。

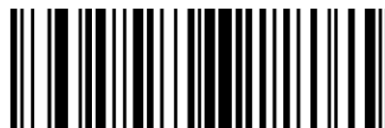
例えば、プリフィックスに「CR」を追加する

- ① 下の「プリフィックス」をスキャン
- ② 「ASCII キャラクタ設定一覧表」P. 82での「CR」値をを参照
- ③ 「数字バーコード」(P. 91)の「1」、「0」、「1」、「3」をスキャンして完了です。

※設定を中止する場合は(P. 92)の「キャンセル」をスキャンします



プリフィックス



サフィックス 1



サフィックス 2

スキャンデータ転送 フォーマット

スキャンデータの転送フォーマットを設定します。



※データそのまま



<データ><サフィックス 1>



<データ><サフィックス 2>



<データ><サフィックス 1>
<サフィックス 2>



<プリフィックス><データ>



<プリフィックス><データ>
<サフィックス 1>



<プリフィックス><データ>
<サフィックス 2>



<プリフィックス><データ>
<サフィックス 1><サフィックス 2>

FN1 置換値

キーボードと USBHID キーボードホストは FN1 置換機能をサポートしています。この機能が有効にすると、EAN128 バーコードに含まれている FN1 キャラクタがある値で置き換えられます。この値のデフォルトは 7013 (Enter キー) です。

※FN1 の置き換え (USB 専用) (P. 20) にて「有効」になる必要があります。

例えば、「A」に置き換える

- ① 下の「FN1 置換値の変更」をスキャン
 - ② 「ASCII キャラクタ設定一覧表」(P. 82) で、「A」 x x x 参照
 - ③ 「数字バーコード」(P. 91) の「1」、「0」、「6」、「5」をスキャンして完了です。
- 設定を中止する場合は (P. 92) の「キャンセル」をスキャンします。



FN1 置換値の変更

付録 A

デフォルト設定一覧

パラメータ	デフォルト値
第1章 ユーザ設定	
デフォルト設定パラメータ	全て
パラメータバーコードのスキャン	有効
読み取り成功時のビープ音	鳴らす
ビープ音の音程	高
ビープ音の音量	大
ビープ音の長さ	長
スキャンモード	ドリガモード（手動）
省電力モード	有効
省電力モードに移行時間	1 秒
読み取り可能時間	9.9 秒
同一コードの読み取り間隔	0.4 秒
第2章 USB インタフェース	
USB デバイスタイプ	HID キーボードエミュレーション
SNAPI (Symbol Native API) ステータスハンドシェイク	有効
USB キーボードタイプ	英語（U.S.）標準 USB キーボード
キャラクタ間遅延	遅延なし
Caps Lock オーバーライド（USB 専用）	無効
Caps Lock のシミュレート	無効
大文字/小文字の変換	変換なし
不明なキャラクタ	不明なキャラクタを含む バーコードを送信する
キーパッドのエミュレート	無効
FN1 の置き換え（USB 専用）	無効
ファンクションキーのマッピング	無効
第3章 バーコード設定	
UPC/EAN/JAN	
UPC-A 読み取り	有効
UPC-E 読み取り	有効
UPC-E1 読み取り	無効
EAN-8/JAN8 読み取り	有効
EAN-13/JAN13 読み取り	有効
Bookland EAN 読み取り	無効
UPC/EAN/JAN アドオン（2 桁と 5 桁）	無視する
UPC/EAN/JAN アドオン読み取り繰返回数	10 回

UPC-A チェックデジットの転送	有効
UPC-E チェックデジットの転送	有効
UPC-E1 チェックデジットの転送	有効
UPC-A Preamble	NS のみ送信する
UPC-E Preamble	NS のみ送信する
UPC-E1 Preamble	NS のみ送信する
UPC-E を UPC-A に変換	無効
UPC-E1 を UPC-A に変換	無効
EAN-8/JAN 8 先頭に「0」追加	無効
UCC Coupon Extended Code の読み取り	無効
Code 128	
Code 128 読み取り	有効
UCC/EAN-128 読み取り	有効
ISBT 128 読み取り	有効
Code 39	
Code 39 読み取り	有効
Trioptic Code 39 読み取り	無効
Code 39 を Code 32 に変換	無効
Code 32 先頭に「A」追加	無効
Code 39 の読み取り桁数設定	指定範囲内：2～55
Code 39 チェックデジットの確認	無効
Code 39 チェックデジットの転送	無効
Code 39 Full ASCII 読み取り	無効
Code 39 バッファリング	無効
Code 93	
Code 93 読み取り	無効
Code 93 の読み取り桁数設定	指定範囲内：4～55
Code 11	
Code 11 読み取り	無効
Code 11 の読み取り桁数設定	指定範囲内：4～55
Code 11 チェックデジットの確認	無効
Code 11 チェックデジットの転送	無効
Interleaved 2 of 5 (ITF)	
Interleaved 2 of 5 読み取り	有効
Interleaved 2 of 5 の読み取り桁数設定	1 種類＝14
Interleaved 2 of 5 チェックデジットの確認	無効
Interleaved 2 of 5 チェックデジットの転送	無効
Interleaved 2 of 5 から EAN/JAN-13 への変換	無効
Discrete 2 of 5 (DTF)	
Discrete 2 of 5 読み取り	無効

Discrete 2 of 5 の読み取り桁数設定	1 種類=12
Codabar (NW-7)	
Codabar (NW-7) 読み取り	無効
Codabar (NW-7) の読み取り桁数設定	指定範囲内 : 5~55
CLSI 編集	無効
スタート・ストップキャラクタの送信	無効 (送信する)
MSI	
MSI 読み取り	無効
MSI の読み取り桁数設定	指定範囲内 : 4~55
MSI チェックデジットの確認	1 つのチェックデジット
MSI チェックデジットの転送	無効
チェックデジットアルゴリズム (検証方法)	Mod 10/Mod 10
郵便コード	
US Postnet 読み取り	有効
US Planet 読み取り	有効
UK Postal 読み取り	無効
UK Postal チェックデジット送信	有効
Japan Postal 読み取り	無効
Australian Postal 読み取り	無効
US Postal チェックデジットの転送	有効
GS1 DataBar (RSS)	
GS1 DataBarOmnidirectional (RSS) 読み取り	有効
GS1 DataBarLimited (RSS Limited) 読み取り	有効
GS2 DataBarExpanded (RSSExpanded) 読み取り	有効
UPC/EAN に変換	無効
Composite	
Composite CC-C 読み取り	無効
Composite CC-A/B 読み取り	無効
Composite TLC-39 読み取り	無効
UPC Composite モード	UPC を常にリンクする
Composite ビープ音モード	各コードが読み取られるたびに鳴る
UCC/EAN Composite コードの GS1-128 エミュレーションモード	無効
2 次元コード	
PDF417 読み取り	有効
MicroPDF417 読み取り	無効
MicroPDF417 を Code 128 エミュレーション	無効
Data Matrix 読み取り	有効

Maxicode 読み取り	有効
QR コード読み取り	有効
読み取り精度レベル	
2 値コードタイプの読み取り精度レベル	レベル 1
4 値コードタイプの読み取り精度レベル	レベル 1
キャラクタ間ギャップサイズ	通常のキャラクタ間ギャップ
Macro PDF	
Macro PDF 送信モード	パススルー
Macro PDF コントロールヘッダー送信	無効
Macro PDF エスケープ文字	無効

その他の設定

コード ID 送信	なし
SSI プリフィックス値	<CR>
SSI サフィックス 1 サフィックス 2 値	<CR><CR>
プリフィックス値	<CR><LF>
サフィックス 1 サフィックス 2 値	<CR><LF><CR><LF>
スキャンデータ転送 フォーマット	データそのまま
FN1 代替値	7013 (Enter キー)
NR (読み取りなし) メッセージの転送	転送しない

付録 B

シンボルコード ID 一覧

コードキャラクタ	コードタイプ
A	UPC-A、UPC-E、UPC-E1、EAN-8、EAN-13
B	Code 39、Code 32
C	Codabar
D	Code 128
E	Code 93
F	Interleaved 2 of 5
G	Discrete 2 of 5、または Discrete 2 of 5 IATA
H	Code 11
J	MSI
K	UCC/EAN-128
L	Bookland EAN
M	Trioptic Code 39
N	Coupon Code
R	RSS Family
T	UCC Composite、TLC 39

X	PDF417、Macro PDF417、Micro PDF417
Z	Aztec、Aztec Rune
P00	Data Matrix
P01	QR Code
P02	Maxicode
P03	US Postnet
P04	US Planet
P05	Japan Postal
P06	UK Postal
P09	Australian Postal

AIM コード ID

各コード ID キャラクタは、]cm の 3 文字で構成されています。

] = フラグキャラクタ

c = コードキャラクタ

m = 修飾キャラクタ

コードキャラクター一覧

コードキャラクター	コードタイプ
A	Code 39、Code 39 Full ASCII、Code 32
C	Code 128、Coupon (Code 128 portion)
d	Data Matrix
E	UPC/EAN、Coupon (UPC portion)
e	RSS Family
F	Codabar
G	Code 93
H	Code 11
I	Interleaved 2 of 5
L	PDF417、Macro PDF417、Micro PDF417
M	MSI
Q	QR Code
S	Discrete 2 of 5、IATA 2 of 5
U	Maxicode

X	Bookland EAN、ISSN EAN、Trioptic Code 39、 US Postnet、US Planet、UK Postal、Japan Postal、Australia Post、Dutch Postal
---	---

修飾キャラクター一覧

コードタイプ	オプション値	説明
Code 39	0	チェックデジットなし、Full ASCII 変換もなし。
	1	チェックデジットを検証した
	3	チェックデジットを検証して、取り除いた。
	4	Full ASCII 変換を行った。
	5	Full ASCII 変換を行い、チェックデジットを検証した。
	7	Full ASCII 変換を行い、チェックデジットを検証して、取り除いた。
	例: チェックキャラクタ「W」を持つ Full ASCII バーコードの場合、AIMIDW の場合、]A7AIMID (7=3+4) として送信される。	
Trioptic Code 39	0	オプションが指定されていないため、常に「0」が送信される。
	例: Trioptic バーコードの場合、412356 は、]X0412356 として送信される。	
Code 128	0	標準データパケット、最初のシンボル位置に FNC1 なし。
	1	最初のシンボルキャラクタ位置に FNC1。
	2	2 番目のシンボルキャラクタ位置に FNC1。
	例: 最初の位置に FNC1 がある Code (EAN) 128 バーコードの場合、(FNC1) AimID は、]C1AimID として転送される。	
Interleaved 2 of 5 (ITF)	0	チェックデジット検証なし。
	1	チェックデジットを検証した。
	3	チェックデジットを検証して、取り除いた。
	例: チェックデジットのない Interleaved 2 of 5 バーコードの場合、4123 は、]I04123 として送信される。	
Codabar (NW-7)	0	チェックデジット検証なし。

	1	チェックデジットを検証した。
	3	チェックデジットを検証して、取り除いた。
	例：チェックデジットのない Codabar (NW-7) バーコードの場合、4123 は、]F04123 として送信される。	
Code 93	0	オプションが指定されていないため、常に 0 を転送する。
	例：Code 93 バーコードの場合、012345678905 は、]G0012345678905 として送信される。	
MSI	0	チェックデジット送信
	1	チェックデジットが送信されなかった
	例：1つのチェックデジットがある MSI バーコード 4123 の場合は]M04123 として送信される。	
Discrete 2 of 5	0	オプションが指定されていないため、常に 0 を転送する。
	例：Discrete 2 of 5 バーコードの場合、4123 は、]S04123 として送信される。	
UPC/EAN/JAN	0	全 EAN 国家コードフォーマットの標準パケットで、UPC-A、UPC-E の場合は 13 桁（サプリメンタルデータは含まない）。
	1	2 桁のサプリメンタルデータのみ。
	2	5 桁のサプリメンタルデータのみ。
	4	EAN-8 データパケット。
	例：UPC-A バーコードの場合、012345678905 は、]E00012345678905 として送信される。	
Bookland EAN	0	オプションが指定されていないため、常に 0 を転送する。
	例：Bookland EAN バーコードの場合、123456789X は、]X0123456789X として送信される。	
Code 11	0	1つのチェックデジット。
	1	2つのチェックデジット。
	3	チェックデジット検証をして、送信しない。
GS1 DataBar Family		オプションが指定されていないため、常に 0 を転送する。GS1 DataBar Omnidirectional (RSS14) と GS1 DataBar Limitd (RSS Limitd) では、アプリケーション識別子「01」も送信する注意：UCC/EAN-128 エミュレーションモードでは、Code 128 の規則で送信されます（つまり、]C1）。
	例：GS1 DataBar バーコードの場合、100123456788902 は、]e001100123456788902 として送信される。	
EAN/UCC コンポジット (GS1DataBar、UCC/EAN-128、UPC コンポジットの 2D 部分)		ネイティブモード転送。注意：コンポジットの UPC 部分は、UPC の規則で転送される。
	0	標準データ。
	1	データの先頭にエンコードされたシンボルセパレータキャラクタが付加されるデータパケット。

	2	データの先頭にエスケープメカニズムキャラクタが付加されるデータパケット。
		このデータパケットは、ECI プロトコルをサポートしない。
	3	データの先頭にエスケープメカニズムキャラクタが付加されるデータパケット。このデータパケットは、ECI プロトコルをサポートする。
		GS1-128 エミュレーション。注意：コンポジットの UPC 部分は、UPC の規則で転送される。
	1	データパケットは UCC/EAN-128（つまり、データの先頭に「J」が付加される）。
PDF417、Micro PDF417	0	IG710 が、1994 年の PDF417 バーコード仕様で規定されたプロトコルに一致する。注意：このオプションが転送されると、受信側は、ECI（拡張チャネル解釈）が呼び出されたか、または転送中にデータバイトの 92DEC が 2 倍になったかを確実に判別できません。
	1	IG710 が、ECI プロトコル（拡張チャネル解釈）に適合するように設定された。すべてのデータキャラクタの 92DEC は 2 倍になる。
	2	IG710 が、基本チャネル処理（エスケープキャラクタなし転送プロトコル）に適合するように設定された。データキャラクタの 92DEC は 2 倍にならない。
		注意：デコーダがこのモードに設定されると、バッファされなかった MicroPDF シンボルやデコーダに ECI エスケープシーケンスの送信を要求するシンボルは転送できません。
	3	バーコードは、UCC/EAN-128 シンボルからなり、最初のコードワードは、903～907、912、914、915
	4	バーコードは、UCC/EAN-128 シンボルからなり、最初のコードワードは、908～909 まで。
	5	バーコードは、UCC/EAN-128 シンボルからなり、最初のコードワードは、910～911 まで。
		例：PDF417 バーコードで有効な転送プロトコルがない場合、ABCD は、「J」L2ABCD として転送される。
Data Matrix	0	ECC 000～140、サポート対象外
	1	ECC 200。
	2	1 番目または 5 番目の位置に FNC1 がある ECC 200。
	3	2 番目または 6 番目の位置に FNC1 がある ECC 200。
	4	ECI プロトコルを実装した ECC 200。
	5	1 番目または 5 番目の位置に FNC1 があり、ECI プロトコルを実装した ECC 200
	6	2 番目または 6 番目の位置に FNC1 があり、ECI プロトコルを

		実装した ECG 200
Maxicode	0	モード 4 または 5 のシンボル。
	1	モード 2 または 3 のシンボル。
	2	モード 4 または 5 で ECI プロトコルを実装されたシンボル。
	3	モード 2 または 3 で ECI プロトコルを実装されたシンボル。
QR Code	0	モデル 1 のシンボル。
	1	ECI プロトコルを実装していないモデル 2 のシンボル。
	2	ECI プロトコルを実装したモデル 2 のシンボル。
	3	ECI プロトコルを実装しておらず、最初の位置に FNC1 があるモデル 2 のシンボル。
	4	ECI プロトコルを実装しており、最初の位置に FNC1 があるモデル 2 のシンボル。
	5	ECI プロトコルを実装しておらず、2 番目の位置に FNC1 があるモデル 2 のシンボル。
	6	ECI プロトコルを実装しており、2 番目の位置に FNC1 があるモデル 2 のシンボル。

付録 C

表 1 ASCII キャラクタセット値一覧

設定値	Full ASCII Code 39 エンコードキャラクタ	キーストローク
-----	----------------------------------	---------

1000	%U	NUL
1001	\$A	SOH
1002	\$B	STX
1003	\$C	ETX
1004	\$D	EOT
1005	\$E	ENQ
1006	\$F	ACK
1007	\$G	BELL
1008	\$H	BCKSPC
1009	\$I	HORIZ TAB
1010	\$J	LF/NW LN
1011	\$K	VT
1012	\$L	FF
1013	\$M	CR/ENTER
1014	\$N	SO
1015	\$O	SI
1016	\$P	DLE
1017	\$Q	DC1/XON
1018	\$R	DC2
1019	\$S	DC3/XOFF
1020	\$T	DC4
1021	\$U	NAK
1022	\$V	SYN
1023	\$W	ETB
1024	\$X	CAN
1025	\$Y	EM
1026	\$Z	SUB
1027	%A	ESC
1028	%B	FS
1029	%C	GS
1030	%D	RS
1031	%E	US
1032	Space	Space
1033	/A	!
1034	/B	"
1035	/C	#
1036	/D	\$
1037	/E	%
1038	/F	&
1039	/G	,

1040	/H	(
1041	/I	)
1042	/J	*
1043	/K	+
1044	/L	,
1045	-	-
1046	.	.
1047	/o	/
1048	0	0
1049	1	1
1050	2	2
1051	3	3
1052	4	4
1053	5	5
1054	6	6
1055	7	7
1056	8	8
1057	9	9
1058	/Z	:
1059	%F	;
1060	%G	<
1061	%H	=
1062	%I	>
1063	%J	?
1064	%V	@
1065	A	A
1066	B	B
1067	C	C
1068	D	D
1069	E	E
1070	F	F
1071	G	G
1072	H	H
1073	I	I
1074	J	J
1075	K	K
1076	L	L
1077	M	M
1078	N	N
1079	O	O

1080	P	P
1081	Q	Q
1082	R	R
1083	S	S
1084	T	T
1085	U	U
1086	V	V
1087	W	W
1088	X	X
1089	Y	Y
1090	Z	Z
1091	%K	[
1092	%L	¥
1093	%M	]
1094	%N	^
1095	%O	_
1096	%W	`
1097	+A	a
1098	+B	b
1099	+C	c
1100	+D	d
1101	+E	e
1102	+F	f
1103	+G	g
1104	+H	h
1105	+I	i
1106	+J	j
1107	+K	k
1108	+L	l
1109	+M	m
1110	+N	n
1111	+O	o
1112	+P	p
1113	+Q	q
1114	+R	r
1115	+S	s
1116	+T	t
1117	+U	u
1118	+V	v
1119	+W	w

1120	+X	x
1121	+Y	y
1122	+Z	z
1123	%P	{
1124	%Q	
1125	%R	}
1126	%S	~

表 2 ALT Key スタンダードデフォルト一覧

設定値	キーストローク
2064	ALT 2
2065	ALT A
2066	ALT B
2067	ALT C
2068	ALT D
2069	ALT E
2070	ALT F
2071	ALT G
2072	ALT H
2073	ALT I
2074	ALT J
2075	ALT K
2076	ALT L
2077	ALT M
2078	ALT N
2079	ALT O
2080	ALT P
2081	ALT Q
2082	ALT R
2083	ALT S
2084	ALT T
2085	ALT U
2086	ALT V

2087	ALT W
2088	ALT X
2089	ALT Y
2090	ALT Z

表 3 USB GUI キーキャラクタセット

設定値	キーストローク
3000	Right Control Key
3048	GUI 0
3049	GUI 1
3050	GUI 2
3051	GUI 3
3052	GUI 4
3053	GUI 5
3054	GUI 6
3055	GUI 7
3056	GUI 8
3057	GUI 9
3065	GUI A
3066	GUI B
3067	GUI C
3068	GUI D
3069	GUI E
3070	GUI F
3071	GUI G
3072	GUI H
3073	GUI I
3074	GUI J
3075	GUI K
3076	GUI L
3077	GUI M
3078	GUI N
3079	GUI O
3080	GUI P
3081	GUI Q
3082	GUI R
3083	GUI S

3084	GUI T
3085	GUI U
3086	GUI V
3087	GUI W
3088	GUI X
3089	GUI Y
3090	GUI Z

表 4 PF キー標準デフォルト値一覧

設定値	キーストローク
4001	PF1
4002	PF2
4003	PF3
4004	PF4
4005	PF5
4006	PF6
4007	PF7
4008	PF8
4009	PF9
4010	PF10
4011	PF11
4012	PF12
4013	PF13
4014	PF14
4015	PF15
4016	PF16

表 5 ファンクションキー標準デフォルト値一覧

設定値	キーストローク
5001	F1
5002	F2
5003	F3
5004	F4
5005	F5
5006	F6
5007	F7
5008	F8
5009	F9
5010	F10
5011	F11
5012	F12
5013	F13
5014	F14
5015	F15
5016	F16
5017	F17
5018	F18
5019	F19
5020	F20
5021	F21
5022	F22
5023	F23
5024	F24

表 6 テンキー標準デフォルト値一覧

設定値	キーストローク
6042	*
6043	+
6044	undefined
6045	-
6046	.
6047	/
6048	0
6049	1
6050	2
6051	3
6052	4
6053	5

6054	6
6055	7
6056	8
6057	9
6058	Enter
6059	Num Lock

表 7 拡張キー標準デフォルト値一覧

設定値	キーストローク
7001	Break
7002	Delete
7003	PgUp
7004	End
7005	Pg Dn
7006	Pause
7007	Scroll Lock
7008	Backspace
7009	Tab
7010	Print Screen
7011	Insert
7012	Home
7013	Enter
7014	Escape

7015	Up Arrow
7016	Down Arrow
7017	Left Arrow
7018	Right Arrow

付録 D

数字バーコード

パラメータの設定で特定の数値が必要な場合、以下の数字バーコードをスキャンして下さい。



0



1



2



3



4



5



6



7



8



9

キャンセルバーコード

「数字バーコード」で間違えた場合や、選択した設定を変更したい場合は、下のバーコードをスキャンします。



キャンセル

反転バーコード

○1 次元コード反転コード

- ・通常のみ - 通常のコードのみ読取ります。
- ・反転のみ - 反転バーコードのみ読取ります。
- ・反転の自動検出 - 通常・反転を識別して読取ります。



通常のみ (デフォルト)



反転のみ



反転の自動検出

OData Matrix 反転コード

- ・通常のみ - 通常のコードのみ読取ります。
- ・反転のみ - 反転バーコードのみ読取ります。
- ・反転の自動検出 - 通常・反転を識別して読取ります。



通常のみ (デフォルト)



反転のみ



反転の自動検出

OQR コード 反転コード

- ・通常のみ - 通常のコードのみ読取ります。
- ・反転のみ - 反転バーコードのみ読取ります。
- ・反転の自動検出 - 通常・反転を識別して読取ります。



通常のみ (デフォルト)



反転のみ



反転の自動検出

○Aztec 反転コード

- ・通常のみ - 通常のコードのみ読取ります。
- ・反転のみ - 反転バーコードのみ読取ります。
- ・反転の自動検出 - 通常・反転を識別して読取ります。



通常のみ (デフォルト)



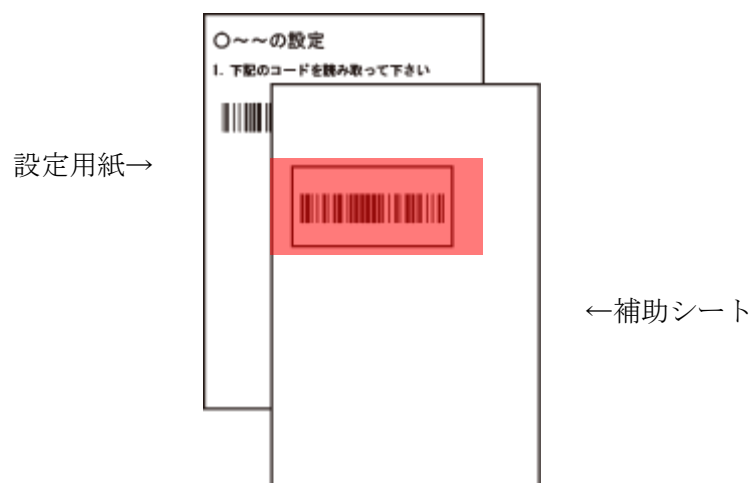
反転のみ



反転の自動検出

読み取り補助シート

下記の点線を切り抜きバーコードの上にかぶせて使うことで、
他のバーコードもまとめて読む誤読を防ぎます。



この中に読み取りたいコードが
来るように被せて下さい。